

はしがき

本書は、大学生、大学院生、保険実務家向けの、保険契約法に関する教科書です。この書籍の意図は、保険契約法に関する重要な法的論点について、制度の趣旨に立ち返って深く考えてみる契機を提供することにあります。そのため、第2部～第4部の各章は、概説的な部分（「Ⅰ 基礎的な説明」と、熟考を求める部分（「Ⅱ 考えてみよう」）とに分かれています。Ⅱの部分が中核であることはいうまでもありません。Ⅱの部分で取りあげた論点は、必ずしも学界において共通の理解が確立しているものではありませんので、様々な見解があり得るところです。本書の書名が「考える保険法」と謳っていることの由縁です。

本書は、第1部（第1章および第2章）を読んだ上で、第2部以下のいずれかの章のⅠの部分を理解すれば、当該章のⅡの部分に取り組めるように構成されています。なお、第2部以下は、各種の保険契約類型に共通の規律（第2部）、損害保険契約に共通の規律（第3部）、人定額保険契約に共通の規律（第4部）に分かれています。

第2部以下のⅡの部分で取りあげた論点は保険契約法における主要論点うちの一部に過ぎませんし、また、Ⅰの部分はⅡの部分に取り組むために必要な事項の説明にほぼ限定されています。そのため、本書は保険法全体を解説するものではありません（保険法全体の解説書を求めている読者には他の教科書をお勧めします）。

このような異例ともいえる教科書の作成をご快諾いただいた法律文化社、および、丁寧に執筆者をご指導いただいた同社の舟木和久様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

2024年10月

執筆者一同